

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

労せずして富を手にした人は心が蝕れる 鍵山 秀三郎 (日本を美しくする会相談役)

1. 日本の国民は半世紀の間に、歴史上始まって以来の豊かさを手に入れました。そして、それは経済的な富だけではなく自由も一緒に与えられました。しかしながら、現代の日本の姿は一世紀前の人から見れば、およそ同じ国とは思えないほどの国になりました。人々の願いは富と自由を手に入れることであり、これさえ手にすれば幸せになれると信じてきました。この願いはかなり叶えられており、本来ならば大方の人たちが幸せになっているはずでしたが、残念ながらそうはなっていないと実感している人のほうが多い国となりました。
2. それは手に入れたものがある代わりに、失ったものもたくさんあるからです。得たものは、お金や財物といった目に見えるものばかりであり、失ったものは心という目には見えず、手に触れることもできないものでした。日本人に限らず、人間は予期せぬ富を手にすると、限りない自由も欲しくなり、結果として自制心を失っていきます。そして自分の行動を規制するものを排除したくなります。
3. では、富を手にすると、どうしてルールが守れなくなり、わがままな自由を求めるようになるかというと、それは財物に責任があるのではなくて、手に入れる手段や方法に原因があります。富を得るのに相応しい努力や忍耐をしている人は自制心を失わず、秩序は保たれてますが、労せずして手に入れた人はその富がその人の心を蝕んでしまうのです。

(参考:「致知」2015年8月号)

ワンポイント経営アドバイス

高収益は企業体質が強いことの証明

稲葉 善治 (ファナック社長)

1. ファナックは「健全な形で永続性を保つ」という意見を持っています。そのためには、社会に付加価値を生み出して、勝ち続けなければいけません。勝ち続けるためには、我々が勝てる市場で、戦わなければいけない。ファナックは利益にこだわっていると言われます。確かに高い目標を持っています。けれども、それは目標であって、目的ではありません。
2. 利益を出し続けるには、競合他社よりも強くなければいけません。競合他社よりも強くあるためには、強い企業体質が必要です。開発、生産、販売、サービス、すべてが強くなければいけない。それを役員、社員がどう理解するか。理解度が強ければ強いほど、会社は強くなっていきます。ファナックの高収益は、企業体質が強いことの証明だと考えています。

(参考:「日経ビジネス」:2015年6月8日号)

経営者のための危機管理

相変わらず続くブラック企業

1. すっかり日本で定着した感のある「ブラック企業」という言葉。長時間労働やパワーハラスメントなどが横行し、新入社員の大半が数年間で離職してしまう企業のことを指している。ブラック企業は中小とは限らず、大企業でもブラック企業はある。傾向的には、外食、小売り、IT、介護などのサービス業に多い。
2. 事例として。全国規模の大型ディスカウント店に勤めるAさん(男)は、大学を卒業し新卒の店員として入社した。入社動機は、大手企業だったことと、給与が高かったこと(月給23万円)だ。だが入社すると、月給には30時間分の固定残業代が含まれていることを告げられた。入社して数年で昇給すると、担当売り場のノルマを課せられた。Aさんはノルマが気になり、休日も店舗に出るようになった。その後管理職に抜擢される。残業代は出なくなり、休日や夜も出ることになる。Aさんは入社7年目で体調を壊し入院、退職している。

(参考:「週刊東洋経済」2015年5月30日号)

古典に学ぶ

忘れる功德 (その2)

(解説) そこへ魯の国の儒者が、なおしてやろうと申しでてきた。華子の妻子は財産を半分さしあげても、と治療を頼んだ。「この病気は、占いなどではどうにもならぬ。薬や祈祷でも同じことじゃ。ひとつ、ご主人の心を変えて進ぜよう。きつとなおるにちがいない」。儒者は、こういって、まず男を裸にしてみた。すると男は着物をほしがった。食いをやらすにおくと、食いをほしがった。暗いなかにとじこめておくと、明るいところへ出たがった。(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」):徳間書店